

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 29 日 (2006.6.29)

【公開番号】特開 2005-258070 (P2005-258070A)

【公開日】平成 17 年 9 月 22 日 (2005.9.22)

【年通号数】公開・登録公報 2005-037

【出願番号】特願 2004-69478 (P2004-69478)

【国際特許分類】

**G 0 3 F 7/11 (2006.01)**

**G 0 3 F 7/00 (2006.01)**

**G 0 3 F 7/004 (2006.01)**

【F I】

G 0 3 F 7/11 5 0 3

G 0 3 F 7/00 5 0 3

G 0 3 F 7/004 5 0 5

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 5 月 9 日 (2006.5.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

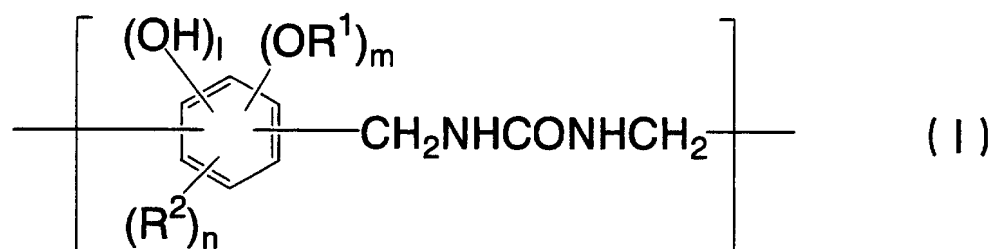
【請求項 1】

支持体上に、主鎖構造中にフェノール骨格と尿素結合とを有する樹脂を含有する下層と、水不溶性且つアルカリ可溶性樹脂及び赤外線吸収剤を含有し、露光によりアルカリ性水溶液に対する溶解性が増大する上層と、を含む記録層を設けてなることを特徴とする平版印刷版原版。

【請求項 2】

前記主鎖構造中にフェノール骨格と尿素結合とを有する樹脂が、下記一般式 (I) で表される構成単位を有することを特徴とする請求項 1 に記載の平版印刷版原版。

【化 1】



式 (I) 中、 $R^1$  はエーテル残基、エステル残基、ウレタン残基、又はカーボネート残基を表す。 $R^2$  は炭素数 1 ~ 20 の 1 価の有機基を表し、この有機基はさらに置換基を有するものであってもよい。

$l$  は 1 ~ 4 の整数を表し、 $m$  及び  $n$  はそれぞれ 0 又は 1 ~ 3 の整数を表し、ここで、 $l$

+ m + n は 1 ~ 4 である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

〔主鎖構造中にフェノール骨格と尿素結合とを有する樹脂を含有する下層〕

本発明に係る下層は、主鎖構造中にフェノール骨格と尿素結合とを有する樹脂を含有することを特徴とする。

ここで用いられる特定フェノール樹脂としては、主鎖に、フェノール骨格と尿素結合（ $-NHCONH-$ ）とを有する樹脂であって、主鎖中のフェノール性水酸基はエステル、エーテル等の誘導体であってもよい。この樹脂は水不溶であり、且つ、アルカリ水溶液に可溶であることが好ましく、ジメチロールウレアと、フェノール類、ビスフェノール類、ヒドロキシナフタレン類、p-クレゾール/ホルムアルデヒドの低分子量縮合化合物からなる群より選ばれるいずれかのモノマーとの縮合重合により得られる樹脂であることが好ましい。

また、特定フェノール樹脂において、フェノール性水酸基が、エーテル基、エステル基、ウレタン基、及び、カーボネート基からなる群のいずれかに置換されていてもよい。

このような特定フェノール樹脂としては、具体的には、下記一般式（I）で表される構成単位を有する樹脂が挙げられる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0086

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0086】

（可塑剤）

本発明に係る記録層である上層および/または下層には、塗膜の柔軟性等を付与するために可塑剤を添加しても良い。例えば、ブチルフタリル、ポリエチレングリコール、クエン酸トリブチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、フタル酸ジヘキシル、フタル酸ジオクチル、リン酸トリクレジル、リン酸トリブチル、リン酸トリオクチル、オレイン酸テトラヒドロフルフリル、アクリル酸又はメタクリル酸のオリゴマー及びポリマー等が用いられる。